

10.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (九州)	良く なっている			
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は市長・市議の選挙があり来街者及び来客数が低迷したが、客単価は増加している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10月中旬になりやや天候が冷え込んだことよって、衣料や寝具等の需要が幾分か回復した感がある。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・飲食店向けの販売量が増えている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・新たに店がオープンしたり、夏控えていた花束アレンジ等のプレゼント需要があったので、数か月前と比べると良くなった。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・台風・降灰の悪天候と全店催事の変更により来店客は減少したが、店外ホテル催事や店頭物産催事が好調。10月下旬の気温低下で紳士・婦人衣料品の動きが活発化した。時計、アクセサリ、宝飾等高額商品も客の購買意欲が増大しており、首都圏には及ばないが販売額の伸びが高い。
		百貨店（店舗事業計画部）	お客様の様子	・連休等の買いやすい時期に集客策を打ち出すと来客数にヤマができるようになる。売る側としては客の「買い時」を探す感じが強い。直近は昨年と比べ冷え込みが緩いため衣料の動きは鈍いが、その分寒くなったときに一斉に動き出すと見込む。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・暖かい日が続いているが、鍋物材料の動きが良くなりつつある。客数は横ばいであるが、販売点数が上がっているため、やや良くなっている状況である。
		スーパー（業務担当）	販売量の動き	・季節外れの台風が過ぎ去ったことにより急激な気温低下が始まった。秋冬物の品ぞろえはピークを迎えており、今まで不調だった衣料品関係の売上が上昇してきた。
		スーパー（統括者）	販売量の動き	・過去の売上推移状況とここ2～3か月の状況を見ると、若干良くなってきている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は台風が頻繁に来た影響で、離島への出荷がストップした。離島を除く量販店、コンビニエンスは前年比、予算比ともに5%増となった。逆にリージョナル型スーパーは5%減となった。
		家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・テレビやレコーダー等のAV商品も底を打ち、動きが出始めてきた。
		乗用車販売店（総務担当）	来客数の動き	・新車展示会を開催すると3か月前より来場客が増えている。販売台数も順調に増加している。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	販売量の動き	・前年同月比では、店頭での販売量・販売額ともにほぼ横ばいの状況である。急激に寒くなったことも影響し、1人当たりの購入単価では、若干コーヒー購入額が増えている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格はやや下げ基調になっており、顧客から更に下がることを期待する様子が見える。顧客の高額洗車需要は、見込みより順調に増加している。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・学会や会合が多数開催されたため空港の利用客が増え、売上も増えた。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	来客数の動き	・競争環境の厳しさ、消費者の節約志向の定着による消費環境の厳しさに変わりなく、消費者が購入先を選択する目は大変シビアなものがある。小売として競争店との差別化が求められており、顧客ニーズへの対応を基本スタンスとした販売戦略に取り組んでいる。	
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊者数が順調に伸びている。夏場の高校総合文化祭やインターハイの開催に合わせ、長崎が世界新3大夜景に認定されたことで観光客が確実に増えている。	
	都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・インターネットを中心とした個人の予約が非常に伸びている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・乗客数は思った以上に安定しており、売上もやや増加した。	

	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・ゴルフシーズンに入ったことも影響しているが、入場者数が昨年同月の1割強とだんだんと伸びている。ゴルフは、プレイ層の平均年齢は高いが、最近、若干若者がゴルフを始める傾向が見えたことが明るい材料である。
	設計事務所（代表）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の影響か、販売が増えている。
	住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・定年後の高齢者世帯などによる自治体の補助金を活用したりフォームが増えている。また、消費税増税前の駆け込みの影響もあり、例年に比べて新たな顧客層の引き合いが少し増えている。
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・景気の影響よりも生活レベルの違いにより、安い物を買う客は買物に慎重であるが、高額品を買う客は迷わずに買う。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・車や携帯電話、パソコン、レジャー関係は流動的だが良い方向に動いている。しかし、商店街の客の動きは停滞している。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・この秋、商店街で様々なイベントを開催したため来街客数は増えたが、なかなか消費に結びつかず、かなり厳しい状況が続いている。
	商店街（代表者）	単価の動き	・特定の客はよく来たが、新規や飛び込みの来店は特に目立ったことはなかった。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・ようやく秋の気候に落ち着きつつあり、秋冬物衣料が動きつつある。旅行やお祝い事での需要もあり来客数も伸びつつある。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の来店客は近隣の高齢者が多い。若い夫婦の来店は、土日にスーパーでまとめ買いするため少ない。
	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・中央市場の相場の状況は、県内需要の増加ではなく、気候の急激な寒暖が要因で価格が上がっている。物が売れて相場が変動しているのはないので、なかなか厳しい状況にある。
	百貨店（企画）	販売量の動き	・台風による悪天候も影響してか、売上状況は全般的に厳しい状況である。特に、衣料品を中心としたファッション関連商品は長く停滞している。
	百貨店（営業政策担当）	販売量の動き	・相次ぐ台風など天候不順の影響で、直近の入店数・売上高は思わしくないが、3か月タームでの中期的な個人消費意欲は比較的安定している。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・客は余計な物を買わない。都心と違って地方はまだ景気が良くなっていない。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・特売品、日用品に売上が集中して、し好品の売上が落ちている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・今月の売上は、食料品が前年比103%、衣料品が同97%で推移しており、衣料品が苦戦している状況である。青果等は昨年の相場からみるとかなり上がり、前年比111%となっている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・食品は販売を強化したこともあり、客数・売上は順調に推移しているが客単価は落ちている。衣料品の売上は、気温が高かったせいもあり大変苦戦している。
	スーパー（総務担当）	それ以外	・住居用品と食品の売上は前年を上回っているが、衣料品は気温低下の鈍化もあり今月も動きが鈍い。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・夏以降、前年並みで推移している。台風水害による野菜類の高値や猛暑・残暑での飲料等の売上増もあり、安定した販売量となっている。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・売出しのハガキを出してもなかなか動きが少ない。
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・先月と変わらず来店はあるが購買につながらない。財布のひもは固い。
	衣料品専門店（チーフ）	お客様の様子	・10月中旬の急な気温の低下とともに売上が加速して伸びている。コートの需要も徐々に増えてきている。
	家電量販店（従業員）	販売量の動き	・家電品は核となる商品の動きが鈍く、ずっと悪い状態が続いている。
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・消費税増税前だが、まだ「駆け込み」という言葉は飛び交っていない。
住関連専門店（経営者）	競争相手の様子	・今月10日に木工祭りがあり、来場者数、売上ともメイン会場では前年を上回った。しかし、店舗の売上は減少している。同業者の話でも景気回復感は地方では感じられない。	
住関連専門店（店長）	来客数の動き	・客数の減少傾向からなかなか脱却できない。	

その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・気候の問題もあるが、秋冬物の動きが悪い。	
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・来客数をみる限り景気が良くなっているとはいえない。特に昼の来客数が少ない。	
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・来店者の様子や話を聞いていると、大きな買物については消費税増税前の駆け込み購入の話題が多く、外食や衣類などの買物は辛抱しようという雰囲気である。そのせいか、以前からすると1ランク下の安価なメニューのオーダーが多く、追加オーダーやアルコールの消費も確実に減っている。	
居酒屋（経営者）	来客数の動き	・人があまり動いていないため、週末の予約状況が特に悪くなっている。	
都市型ホテル（販売担当）	単価の動き	・消費税増税への対応に追われている。チラシ、看板、ソフトの変更などが急務となり経費増になっている。夏から暑い日が続いたため水光熱費がかなりの負担になっている。	
都市型ホテル（総支配人）	販売量の動き	・宴会関係の宿泊売上が非常に伸び悩んでおり、景気が良いとは思えない。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・国内旅行は、複数の台風の影響で航空機・バスツアーに多少の取り止めが出た。海外は、領土問題で昨年から大きく減少していた韓国がようやく前年並みとなった。	
旅行代理店（企画）	販売量の動き	・販売量は、前年同月比でほぼ横ばいである。	
タクシー運転手	来客数の動き	・今月の客の動きはいくらか良くなっているが、「長崎おくち」が雨によって1日順延となり、平日に行われたので客の動きは多少悪かった。	
タクシー運転手	お客様の様子	・県外から人は来ているようであるが、団体バスなどでの移動が多い。人の流れにむらが多く、あまり良くない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は稼働率・予約状況が大変良く、人の流れがあった。売上も前年度に比べると伸びている。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・販売のデコ入れを図っても、販売量が上向く兆しが無い。	
通信会社（総務局）	販売量の動き	・新規契約獲得数・解約数とも前年比に大きな変化はみられない。	
通信会社（業務担当）	販売量の動き	・10月は、話題の新商品の販売数が伸びたものの入荷待ちが発生した。一方、他の商品は例年と比べても売上減となり、厳しい状況であった。	
美容室（店長）	来客数の動き	・景気は着実に持ち直していると言われるが、地方に浸透するには時間が掛かる。来客数の動きもさほど変わらない。	
その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・7、8月と猛暑による入院等で顧客減となったまま、例年の状態に戻っていない。	
音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・今の時期は生徒数が動く時期ではないので変化はない。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・不動産業のマンション分譲、戸建て分譲の来客数は前月と変わらずあるが、契約に至る件数が少ない。ただ、駆け込み需要は少しあり、今までなかった物件についても問い合わせが増えている。	
やや悪くなっている	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・日中はまだ暑さも残り客の入りは少ない。会社納入は、祭日が多いとその分売上は落ちる。来客数も販売量も大幅に減少し前年を下回っている。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・天候のせいもあるが、本来10月に売れなければいけない一般衣料品は非常に厳しい。美術、時計、宝飾は好調に推移しているが、高額品の伸びがボリュームゾーンの落ち込みをカバーしきれてない。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・入店客数が昨年の95%と伸び悩んでいる。いろいろ催事をしているが客が来ない状況である。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・衣料品の動き、特に婦人服の動きが悪い。消費税増税を控え、大型商品の購入を優先するため、洋服は後回しとの声も顧客から聞こえている。
	百貨店（営業統括）	販売量の動き	・9～10月にかけての台風や高温などの異常気象の影響で、季節商材の秋物が売上不振となっている。

		スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・近隣商圏で同業他社が相次いで参入したため、来客数が減少し業績が悪化している。消費マインドは年初から緩やかに回復しており、販売点数の変化はさほどみられない。そのため、来客数の減少の歯止めと回復が重要になっている。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・気候の変化が激しく秋物衣料の売上が伸びなかった。週末ごとの悪天候も客足に影響した。特にフリー客が少なく、前年割れの売上になった。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	販売量の動き	・天候に大きく左右されたが入店客数も落ち込んでおり販売額が伸びない。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・10月は、週によって忙しさに極端な差があった。トータルではかなり悪い状況が続いている。大分市内で全国市長会のあった週は来店客数も多くよかったが、それ以外の週は良くなかった。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・従来、10月は客足や売上が増える時期だが、台風の影響で売上が前年度より落ち、なかなか上がらない。
	悪くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・台風の影響の雨模様が続き、過去最低の売上となった。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・10月の売上は、台風の影響と上旬の気温上昇で、関連施設も含めると94～99%と前年比を下回った。当店の分野別に見ると、衣料品92%、家庭用品93%、雑貨104%、食品96%となっている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客数が伸び悩み、厳しい状況になっている。単価も下がり、客の財布のひもは固く、必要な物以外は購入しない傾向にある。客数、単価とも大きく前年を割っている。
企業動向関連 (九州)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原料不足による商品の供給不足もあるが、今年前半にあった在庫がほとんどなくなり、取引先に迷惑かけている現状である。商品の売行きはとても良い状況にある。今年は異常な暑さが10月まで続き、スーパー、居酒屋向けの商品、特に焼鳥やたたき等夏場向けの需要が強い。
		繊維工業（営業担当）	それ以外	・円安で、海外生産から国内にシフトされたところがあり、受注的には増えつつある。しかし、国内産業の弱った体力では、生地や付属品などの生産スピードが需要に間に合わない。仕事が増えても残業時間の規制も厳しくて、注文を断るしかない。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月の受注件数は前年比で横ばいだが、1件当たりの受注額が10%近く伸びた結果、売上金額も増えた。高額商品の売行きが伸びてきた。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・10月は前年よりいくらか良くなった。特注的な受注もありやや良い。通常の商品の動きはあまり変わらないが、特注品や少額の見積もよくきている。
		金属製品製造業（事業統括）	受注価格や販売価格の動き	・例年、下期の売上が上期よりも20%程度多いので微妙ではあるが、やや良くなっていると考える。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前に比べると受注量が若干上向きになっている。このような動きが少しずつ出てくるのではないかと期待もしている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1、2か月前から半導体の製造装置の受注が急激に増えてきている。大きくバランスを欠いて仕事量が増えたため、人が足りず残業で対応しているが、コストの面で大変厳しい状況である。仕事量としては全体的に良くなっている。今後もこの状態はしばらく続く予想する。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・取引先での受注状況、人員のひっ迫性などを感じる。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・技術者や職人の不足が発生し始めている。今後、発注される工事に影響が出てこないか心配される。現在は仕事を選択している状況である。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・原材料や人件費のコストアップなどにより、収益悪化を懸念する先がみられるが、一般機械や食品関連企業の生産が回復傾向にあるほか、乗用車の販売も伸びてきている。また、パートタイマー等の求人が増えるなど、雇用環境も改善してきている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・建設関連を中心に受注量は増加している。選別受注もできる状況にあり一定の利益は確保でき始めている。

変わらない	金融業（営業）	取引先の様子	・企業の受注状況は様々な業種で上向くか、今後上向く見込みである。地方では長年厳しい状況にあった建設業もこれまでになく仕事を抱えている。
	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・おせちの販売予約が2～3割伸びている。価格帯も昨年の1万円台から2万円台上がっている。
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・畜産物の販売は非常に厳しい。販売価格を上げられない状況である。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・先月と同様受注量は良好であり、外注を増やして消化している状況である。
	精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・下期の計画とあまり変わらない数字である。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・稼働日数の差はあるものの日量生産台数は安定している。
	その他製造業（産業廃物処理業）	受注価格や販売価格の動き	・商品の回収量が増えておらず価格も停滞している。また、取引先各社の生産量は増減していない様子である。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地は建設業関連の業者が多く、災害復旧関連工事の大幅な発注により、どの業者も資金繰りの問題はない。一方、建設業関連以外の会社はそれほど大きな景況感の上向きはない。
	新聞社（広告）（担当者）	受注価格や販売価格の動き	・食品関連、住宅設備関連は引き続き好調だが、旅行関連、レジャー施設関連、教育関連の広告出稿数が前年比40～60%台と大きく落ち込み、全体でも80%台にとどまった。
	経営コンサルタント	受注価格や販売価格の動き	・価格が非常に抑えられているのが問題だ。
やや悪くなっている	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・国が景気対策として補助金を出した市町村の建設関連委託業務は、平成24年度業務としてすでに発注が終わり、昨年度で業務が竣工しているものが多い。今年度は、発注する業務が少なく景気が良くなっているとは言い難い。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・土木関連の建設業者が仕事を選別しながら契約している。九州からも東北に向かう業者もいて人集めに大変だ。新規社員の面談ばかりしている。自動車ディーラーに話を聞くと、ハイブリット車は継続して販売好調な様子である。
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主からの値下げ要請があったり、工場や配送センターの集約が続いているので悪くなっている。
悪くなっている	不動産業	取引先の様子	・賃貸管理の入居が少なくなっている、事務所賃貸の申込みもない。売買の方も少しずつ動きが鈍くなっている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・9月末に消費税の経過措置期間が終了し、建築工事はまあまあであるが、他のところは非常に厳しい状況になりつつある。
雇用関連	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・製造業、建設業を中心に求人数が大幅に増加し、前年比50%増となった。聞き取りでは様々な業種で人手不足が続いている。
(九州)	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要による受注増により、大手住宅メーカーから事務系の派遣依頼が増加している。
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・東京オリンピック決定以降、ゼネコン及びインフラ関係の雇用状況に変化がある。今まで、早期退職を募って経営改善を図ってきた各社が、雇用維持のため65歳雇用制度も併せて退職させない方向へ舵を切っている。
	人材派遣会社（社員）	それ以外	・宴会でのパーティコンパニオンの派遣を行っているが、昨年度より新規の引き合いが増えている。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人倍率の上昇とともに、求人依頼数が増加している。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・注文も多くなっているし、直接雇用を前提とした紹介予定派遣も増えている。長期的に雇用しても大丈夫という判断から、企業が直接雇用を希望しているようだ。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人の取扱件数が前年を上回って推移している。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間求人有効数もかなり伸びているが、月当たりの新規求人数の伸びが大きかったため、有効求人倍率が上昇している。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・9月の新規求職者数は前年同月比で12.5%の減少、有効求人倍率も0.15ポイントの大幅改善となっている。
変わらない	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・求人数は3か月前と比較して増えてきているが、前年とほぼ変わらない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・有効求人倍率は上昇していない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・中小の不動産関連の社員求人が増えている。不動産賃貸、マンション経営など、アベノミクスの効果もあるが、消費税増税の影響がある。一方、大手企業や公務員の経費カットが消費を伸び悩ませている。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・小売業においては、新規店舗がオープンするなど動きがみられるが、製造業は円安に伴う原材料の高騰分を価格に転嫁できていない、下請企業は請負単価が上がらないなどの状況にあるようであり、まだ厳しい状況にある。
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・建築関連でCAD操作や受付業務の求人依頼が若干増えている。その他業種では目立った増加はない。
	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・年度中間の9月末は契約終了、新規契約・追加注文等活発な動きがある時期であるが、求人数が横ばい状態のままである。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・予定採用数を満たしたあとでも追加採用を実施する企業も見受けられるが、景気状況に直結しているとまでは言えない。
やや悪くなっている	-	-	-
悪くなっている	-	-	-